の部屋で過ごしています。自分から他の利用者に近づいて行き、ピタッと身体をくっつけたり、横になっている人の顔や手を触ったりします。反対によく動く利用者に身体を触られて、泣きそうになったり、逃げるように背を向けたりすることもあります。リビングにある吸引器に興味があるようで、近くに置いてあるとニコニコしながら近づいて、接続してあるチューブを引っ張っています。職員が反対側を引っ張ると笑いながら引っ張り返します。引っ張る時の抵抗感が面白いようです。起き上がりこぼしの玩具は、職員が倒して見せると自分から手を伸ばして倒しました。倒れるたびに職員の顔を見ます。倒れたことを伝えているように感じました。

赤いアンパンマンの絵が書いてあるマラカスを振って、音を出すとじっと見ますがすぐには触ろうとはしません。持たせようとマラカスを差し出しても手を引っ込めます。しかし見えない所でマラカスを振ると向きを変えてマラカスを見ます。興味はある様子ですが、触れようとはしません。始めて見る物や、慣れない物は慎重になってなかなか触れないようでした。

Aさんは現在、絵本遊び、ボール遊び、音遊びを行っています。絵本の語りかけでは、『だるまさんが』の中の赤いだるまをじっと見ます。横に並んでいる小さいだるまの上に「だるまさんが」と書かれているページをめくると、片方のページに赤いだるま、もう片方に「ドテッ」という擬音語が書かれています。身体の動きを止めて視線を文字と絵に交互に移したあと、赤いだるまの絵を見ています。左右を見比べて絵のページの方の興味がより強くあるのだと感じます。『しろくまちゃんのほっとけーき』の絵本は、「ぽたあん」「どろどろ」などの擬音語が書かれているページに、オレンジ色の背景の中にたくさんのフライパンが書かれています。そのページが出てくると手を叩いて笑っています。カラフルな絵とテンポのよい擬音語が面白いようです。

職員がボールを見せてから隠すと体の向きを変えて探し、見つけると近づいて触ろうとします。Aさんに向かってボールを転がすと、ボールに触ってから無雑作に手でポイと払います。ボールが足にあたると足で蹴ります。このようなときは、ボールが見えなくなっても目で追ったり探したりすることはしません。転がっているボールにはまだ興味がないようです。

音遊びでは、ツリーチャイムを職員が鳴らしてみせると、揺れているツリーを見て身体を揺らして笑っていました。ツリーチャイムの綺麗な音や流れるように動くツリーが、面白いのか全身で楽しさを表しているようでした。何回かやって見せると、自分からツリーを触って音を出していました。触る時は、真剣な表情でしたが、触ったあとは身体を左右に振って笑っていました。嬉しいという様子が伝わってきました。

## ほのかの日常活動紹介

杉山　あずさ

Aさん（横地分類A1）は歌いかけをよく聞いています。『めだかのがっこう』を歌いかけると、歌いかけに気づいたように目の動きをとめて聞いている様子が見られます。「そーっとのぞいてみてごらん」の部分を小さな声で歌うと、少し身体に力を入れ眼球が左の方へ向きます。「そーっと」の小さく歌う部分で、より聞こうとグッと気持ちを集中させているように感じられます。音の強弱を感じながら聞いているのだと思いました。

『あぶくたった』を歌いながら、手に触れる活動をしました。「あぶくたった煮えたった」と歌い、リズムに合わせて手を包み込むように触れると、口角があがり顔がほころびタッチングを感じている様子が見られます。「煮えたかどうだか食べてみよう」の所でタッチングがなくなると、眼球を左右に動かし、次のタッチングを待っているような表情になります。「むしゃむしゃむしゃ」のリズムが変化する所で、手を包み込むタッチから手の甲をそっとつまむようなタッチに変えました。手の甲を指で触れると、口をすぼめるような表情をします。タッチングがあることで歌のリズムをより感じ、またタッチの仕方でリズムの変化を感じ、楽しめているのだと思いました。

Bさん（横地分類A1）はよく右腕を上のほうへ上げて動かしたり、「あーあー」と声を出してたりすることが多く見られます。「活動をはじめますよ」と声をかけると、職員の声に意識を向けます。

Bさんの横でカラコロツリーの上からビー玉が転がるように落とします。ビー玉が転がるカラカラカラという音が鳴ると、挙げていた腕を下ろし音のする方へ視線が向きじっと動きを止めて聞いています。